

26. 方向目標

生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う」です。

この目標は、方向目標という捉え方をします。従来の教科が、客観的な到達点を示す到達目標という捉え方をするのと、よく対比されることがあります。

方向目標とは

方向目標とは、子供が学習活動によって、ある客観的な内容を習得するような到達点を示すのではなく、ある方向性に向かうこととした目標のことである。

例えば、社会や算数、理科などのように、内容がはっきり決まっている教科では、到達点がはっきり示される。

社会科の「公共施設の場所や働き、交通の様子などが分かる」

算数の「2位数+2位数の計算の仕方が分かる」

理科の「成長のきまりや体のつくりが分かる」

などは、決まった内容が分かることが到達点として示されているのである。

これに対し、生活科では、

「・・・人々、社会及び自然とのかかわりに関心をもち・・・」

「自分自身や自分の生活について考えさせる・・・」

「・・・自立への基礎を養う」

など、これらは、到達した？しない？といった到達点がはっきり示されない。むしろ到達点をもたないといった方が良い。ただ方向性を示しているのである。

したがって、この方向目標は、「その子にとって…」ということが問題となってくる。教師の評価や支援が一人一人の子供に向けられる理由は、このような目標論からも出てくるのである。